

Active ふくしま

● 発行 ●

社会福祉法人 福島県社会福祉協議会

地域包括・在宅介護支援センター協議会 企画広報委員会

〒960-8141 福島県福島市渡利字七社宮 111

TEL : 024 (523) 1256

E-mail : shisetsu@fukushimakenshakyo.or.jp

vol.3

2015年3月16日発行



「地域ケア会議の推進」

地域ケア会議は、高齢者個人に対する支援の充実と、それを支える社会基盤の整備を同時に推進することにより、地域包括ケアシステムを構築していくためのひとつの方法だと考えられます。

地域ケア会議が重視される背景には、急速な少子高齢化に伴い医療・介護・生活支援などが必要とする高齢者が増加するとともに、それを支える現役世代が減少していく中で、多職種連携や地域住民の協力が二層必要となっており、地域ケア会議を活用して地域づくりに取り組むことが有効であると考えられます。地域ケア会議を効果的に活用するためには、その目的や機能の理解はもとより、それぞれの市町村の実情に応じた体制や運営方法を主体的に作り上げていく必要があります。市町村の規模、地域特性、地域包括支援センターの設置状況、地域ケア会議の構築状況等が多様になることを意識しながら、地域ケア会議を有効に活用して、市町村の行政計画および実行、地域包括支援センターの業務、医療・福祉等の関係機関の活動、地域のひとびとの活動等が有機的に連動し、高齢者等が尊厳あるその人らしい生活を継続できる地域の実情に合った地域包括ケアを実現できるよう努めていくことが求められています。

今号の 主な内容

各支部やセンターにおける地域ケア会議の推進に向けた取り組みを紹介いたします。是非ご覧ください。

「地域ケア会議」の力

伊達市保原地域包括支援センター

管理者 社会福祉士 森 美樹

研修でお会いする福島県内の地域包括支援センターの皆様から、それぞれに工夫をこらした「地域ケア会議」をお聞きます。たくさんの方のヒントや刺激と、地域の力をいただきながら運営してきた当センターの「担当圏域地域ケア会議」についてご報告します。

当センターでは、「地域ケア会議」機能をもつ2本立ての会議があります。一つ目は定例会を地域の方や多機関協働で行っている「保原地域包括ケア会議」。二つ目はケアマネジャーとの協働でおこなっている「保原ケアマネ連絡会」を開催しています。また、必要に応じて随時「個別の事例をもとにした地域ケア会議」を開催しています。

一つ目の「保原地域包括ケア会議」の構成メンバーは民生児童委員、医療機関（看護師）、薬局、圏域内居宅介護支援事業所、介護老人保健施設、社会福祉協議会、行政担当であり毎回の参加人数は

12名〜15名前後です。議題に合わ

せて警察署、消防署、保健センターなどの担当者が合流することもあります。今年度の活動テーマは「徘徊を散歩にかえるために私たちにできること」です。これまで医療機関、介護保険事業所、理美容店、ガソリンスタンド、銀行等の社会資源をマッピングし地域の社会資源の偏りを共有したうえで、安心して徘徊できる町にするためには、「何が必要」か検討しています。保原の現状を知り、キャラバンメイト講座の受講者の中にはサポーター養成講座開催を計画しているメンバーもいます。

二つ目の「保原ケアマネ連絡会」は圏域内居宅介護支援事業所、介護保険事業所のケアマネジャーとともに行っている会議です。20名、25名ほどの参加者全員で「あなたと私のケアマネ連絡会年間計画」を立てて、成年後見制度や障がい者の制度といった介護保険制度以外の複数の制度を活用した事例、医療連携課題の見える事例、

認知症ケアが鍵となる事例などをもとに、新たな繋がりや「こんなことがあるといいよね」といった社会資源の開発まで含めた検討をおこなっています。月によっては「とにかく元気になる研修会」でひたすら動いたり、笑ったりすることもあります。

二つの会議とも毎月1回、ほぼ定例で行っています。両会議で大切に行っていることは、「私たちに
なができるか?」を会議の場面に
だけではなく、それぞれが現場に

持ち帰って普段の活動に活かすことにより、地域の目標達成に寄与する実践に繋げていけるかどうかということです。2つの会議の核となる部分には、平成23年度に整理した「こんな地域だ」といいなあ（写真）があり、その都度新たなニーズを整理しながら、どちらの会議で検討すると効果的センター内で協議し継続的に取り組んでいます。

「こんな地域だといいいなあ」というたった一つのつぶや

「こんな地域だといいいなあ」のまとめ

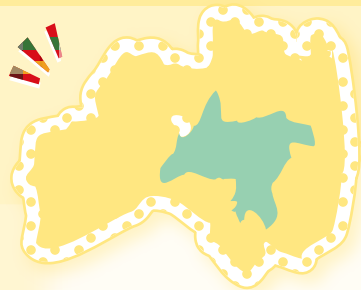
総人口 5,730人 (高齢化率27.6%)
世帯数 303人 (高齢世帯13.1%)

介護保険
ケアマ・民生委員
近所づきあい

きから地域を変えていく力を持っているのが「地域ケア会議」だといつも参加メンバーから教えていただいています。「個別事例をもとにした地域ケア会議」も目指す方向は同じです。会議開催や運営をその時々で見直しながら、これからも地域の方や専門職の方々とともに進むべき方向を見失うことなく介護保険改正の海原に漕ぎ出していきたいと思います。地域ケア会議の羅針盤は担当圏域（現場）の中に！



「こんな地域だといいなあ」



県中支部

地域ケア会議の取り組み

日和田・西田地域包括支援センター
主任介護支援専門員 植田 かおり

I. はじめに

郡山市には17
包括があり全て
委託となってい
ます。当包括は
南東北福祉事業
団が受託し郡山
市北西部に位置
する町2つを担
当しています。

商業、工業を中
心に栄えた日和田
町と農業を中
心にした西田町
です。「地域ケ
ア会議」につい

ては平成25年度から本格的に取り
組んでおり、開催までの準備も含
めて紹介していきます。

II. 開催までの取り組み

1. 日和田町、西田町各行政セ
ンターの後押しをいただき、開催
できるように事前研修会と打ち
合わせを行う（行政保健師と理

	郡山市	日和田町	西田町
高齢者人口(人)	69,860	2,289	1,322
面積(m ²)	757.06	22.52	27.28
高齢化率(%)	21.5	22.9	28.7

(H26.1.1現在)

2. 「地域ケア会議についての要
項」1年間の開催予定の作成（H
25・4月）

3. 「地域ケア会議」出席依頼の
連絡調整

① 行政センター所長へ会議の
あいさつ依頼（開催場所は地
区交流センターで）

② 地区の民協へ協力依頼する
ため会長宅を訪問

③ 近隣の居宅介護支援事業所
へ出向き周知や事例提出を依
頼する。個別ケース提出時は
事例をまとめて持参しなくとも
良いことを伝える（ケース
内容を事前に確認し、参加者
を包括が調整）

④ 日和田町にあるサービス事
業所へ趣旨を説明し出席依頼
（特養、GH、小規模、有料
老人、デイサービス、ヘルパー
等）サービス事業所の事業内
容を知ってもらう内容

III. 結果

（平成25年4月～26年11月までの実績）

	テーマ	参加者
個別ケース検討	認知症高齢者夫婦(金銭管理)	居宅、行政センター保健師、民生委員、あんサボ
	アルコール依存症	居宅、行政センター保健師、民生委員
	非現代的な生活をする方の人権擁護	行政センター保健師、民生委員
	障害者の介護保険の移行についての問題	介護保険課、障害福祉課、社会福祉課、居宅、ヘルパー、他包括
	キーパーソン不在の精神疾患・透析患者	病院MSW、介護保険課、社会福祉課、保健所
町全体の関係機関構築 (参加者40人程度)	高齢者虐待報告・関係機関の連携についてグループワーク	行政センター所長、保健師、民生委員全員、地区社協、老人相談員、サービス事業所、居宅3事業所(担当者が多い)
	地域包括ケアシステムについて地域貢献、連携についてグループワーク	

以上が実績となりますが、個別
ケースについては、ケア会議実施
後、すぐに問題解決につながる
ことも多いですが、他機関と連
携することにより、古くからの生
活状況が解り、今後支援していく
にあたり「皆が関わってくれる安
心感」が得られたと居宅のケアマ
ネからの話もありました。またケ
ースを通じて「市への問題提起」も

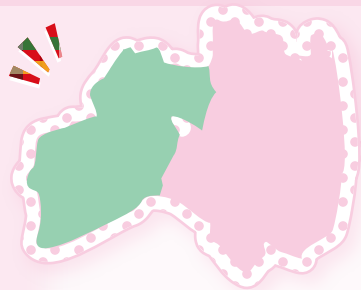
行いました。日和田町全体で行っ
た会議は毎年テーマを変えて、参
加者を若干変えています。今後
は医師や町内会なども含めて開催
していきたいと考えています。

IV. おわりに

地域ケア会議は困難事例を解決
に導き、個別のケアマネジメント
力を高めることも一つの目的では
ありますが、この会議を開催する
までの調整でコミュニケーション
をとり、各関係機関や地域団体と
高齢者を支えていく意識を高めて
いくこと、「開催まで」「開催後」の
連携こそが地域包括ケアシステム
の構築に繋がるのではないかと思
います。今後は、高齢者の自立支援
の助けとなるケアマネジメントを
地域全体に普及しながら、地域で
高齢者を支えるネットワークをさ
らに強化していきたいと思えます。



(写真：H26.10日和田地域ケア会議の様子)



会津支部

「地域ケア会議が意味するもの」

会津美里町高齢者あんしんセンター（地域包括支援センター）
主任介護支援専門員 三津谷 若子

会津美里町 地域の特性 人口約21,163人
（平成26年10月1日現在） 高齢者人口7,159人
高齢化率 約33.8%

地域ケア会議が制度上義務付けられる方向性になった時、何をどうしたらいいのか分からないというのが本音でした。

会津美里町には地域包括支援センターは一か所、5つの居宅介護支援事業所があり、居宅介護支援事業所にはすべてに主任介護支援専門員が配置されており、平成21年度から毎月一回主任介護支援専門員ネットワーク会議を立ち上げ、情報の共有化や地域課題を話し合う場を設けてきました。あがってきた課題などを行政にあげ、地域をより良くするための一翼を担ってきたのですが、決定権はないため、あげた課題も方向性が定まらないこともあり、困難ケースや虐待ケースでの個別ケア会議は随

時行われていましたが、召集メンバーもその時々で異なるため、そこで見えてきた地域の課題を取りまとめ次につなげていく体制は弱かったように感じています。

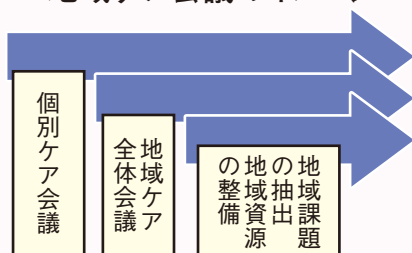
そのような状況を打破し、会津美里町オリジナルの地域ケア会議を形作っていくためには、まず国が示す「地域ケア会議」を理解する必要がありますと考え、主任介護支援専門員、行政、医療機関など会議に主として関わってくるであろう専門職に向けての研修を企画しました。講師には推進員を招き地域ケア会議の基本を学びました。しかしながら、個別ケア会議に諮る対象者を各ケアマネジャーから募るには敷居が高い部分があり、その後も思うように進めることができませんでした。

平成26年1月一番最初の事例は地域包括支援センターも関わっている事業で行いました。担当しているケアマネジャーから上げてもらうという形を取りつつ、その方の世帯を包括的に支えることを目

的としました。ケアマネジャーが担当している世帯主と、それを取り囲む世帯全体の課題は関連性が強く、双方に影響しあっているものでしたが、包括側とケアマネジャー側の視点にはいささかズレがあり、到着点にも差があったように思います。その後も地域ケア会議を意味するものとしてどう形作るかは大きな課題でした。地域ケア会議が意味するものを、関係各職種に伝達することは容易なく、ケースを提出することへの敷居の高さは拭いきれませんでした。ケアマネジャーの意識やファシリテーターとしての包括、まだこれからだと実感しています。

来年度からの方向性としては、ケア会議が定着するまではとにかく各居宅支援事業所に事例を出してもらうことから始めたいと考え、今後は個別ケア会議の上に「地域ケア全体会議」を設置し、個別ケア会議を積み重ねていく上で見えてきた地域課題を整理し、地域に必要な社会資源の開発や地域づくりを目指していきたいと思

地域ケア会議のイメージ





相双支部

『地域包括ケアシステムの構築』 ～南相馬市がめざす地域づくり～

原町東地域包括支援センター

管理者兼主任介護支援専門相談員 飯島 直美

南相馬市は、小高区と鹿島区、そして原町区内に西地域と東地域、合わせて4つの包括支援センターが行政から委託を受けて運営し、市役所の健康福祉部長寿福祉課が高齢福祉の担当部署となっています。

南相馬市の人口、高齢化率についてご紹介します（表1）。

表1 南相馬市の人口

	人口	高齢者数	高齢化率
平成23年3月（震災前）	71,561人	18,546人	25.9%
平成26年6月	64,731人	19,414人	29.9%

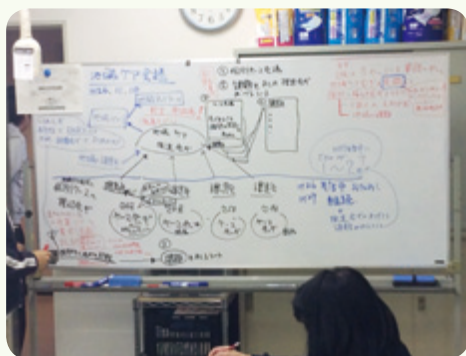
この数値は住民基本台帳から出している人数であり、実際に居住している実人口は5万人をきっているとのこと。また、原発から20km圏内となる小高区では、いまだに住み慣れた地域を離れての生活が強いられ、住民基本台帳登録の人口が減少している

中、高齢者人口は帰還し増え続けるという状況にあり、高齢化率も31・1%と伸び続けています。30km圏内の原町区や仮設住宅・復興住宅の立ち並ぶ鹿島区では、帰還する人は増えているものの高齢者の割合が高いため、高齢化率も29・4%、30・8%と増え続けています。今後も高齢者が増えていることは明らかであり、南相馬市の高齢者が元気に住み慣れた地域で、自分らしい生活を送られるような地域づくりが求められています。長寿福祉課と一緒に動き出しているものとして、住民主体となつて介護予防を意識した参加・活動できる場づくりへの支援、認知症対策、多職種協働による地域包括支援ネットワークの構築等があげられます。その中で地域ケア会議をどのように設置し運営していくかが大きな課題となっています。南相馬市4包括代表職員と長寿福祉課の担当職員が共同で毎月打ち合わせを開催し、それぞれの役割を確認しながら内容を詰めている

ところです。地域ケア会議については、「個別地域ケア会議」と「推進地域ケア会議」の設置について検討されています。

一つ目の個別地域ケア会議はこれまでで開催しておりますが、個別の困難事例等の支援を通じて地域の課題を把握するものです。加えて、これから行う地域ケア会議は地域づくりや資源開発も意識しながら進めていく必要があります。業務量の増加に伴う会議録や書類作成、整理に関する効率化も検討課題となっております。この個別ケア会議については包括支援センターが主体となつて開催する予定です。

二つ目の推進ケア会議は行政主体で開催し、個別地域ケア会議で解決できない事項を協議することとしています。参加対象も包括支



（地域ケア会議を充実させていくための流れを確認）

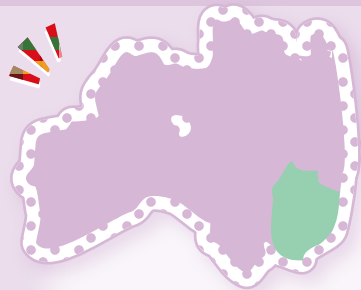
援センターの代表や保健福祉・医療関係者など専門職を主とするところで検討が進んでおり、これにより、他職種との連携を一層強化する狙いがあります。

南相馬市も例にもれず介護従事者不足は深刻であり、介護保険サービスだけでは十分なケアマネジメントができない状況となっています。予防給付から地域支援事業に移行する準備も早急に進めなくてはなりません。そのためには専門職の連携だけでなく自助、互助の強化を期待していきたいところです。

これから南相馬市の高齢者がますます元気になって、自分らしい生活を送られる地域となるよう、地域支援ネットワークづくりに多職種協働で取り組んでいきたいと思っています。



（市内包括と行政職員による地域ケア会議についての検討会）



いわき支部

「あんしん見守りネットワーク活動事業の展開」 いわき市川前地区高齢者等支援ネットワーク連絡会設立

NPO法人地域福祉ネットワークいわき
小川・川前地域包括支援センター 管理者 吉田 善子

「NPO法人地域福祉ネットワークいわき」は、平成19年度よりいわき市から委託を受け、市内7カ所の地域包括支援センターを運営しています。

今回は、小川・川前地域包括支援センター管内の見守りネットワーク活動事業を紹介します。（いわき市では平成21年から「あんしん見守りネットワーク活動事業」を実施し、地域内に「高齢者見守り隊」を立上げ、一人暮らし高齢者等に対する声かけ活動を推進しています。平成26年12月現在、市内19地区に結成されています。）

川前町はいわき市の最北端に位置し、過疎化が進み高齢化率が40%にもおよぶ超高齢化地域です。この地区の高齢者課題を協議するため、平成25年7月に第1回目の地域ケア会議を開催しました。この会議では「震災の影響もあり若い世代がいらない」「5年後の暮らしが心配」「民家が離れていると住民だけでの見守りが難しい」などの課題があげられ、「互

いの見守りを続けていこう」「地区の仲間と協力して体制をつくらう」「地区内には人が少ないから地区外から入ってくる人にも協力してもらおう」との意見が出されました。

この会議を受け、平成25年12月に、行政や地区の福祉・防犯・防災など高齢者の見守りに携わる方々で組織した「川前地区高齢者等支援ネットワーク連絡会設立準備委員会」を設置し、何らかの支援が必要となるリスクの高い高齢者や、今後急増が見込まれる認知症高齢者など、地域全体で支える必要のある高齢者の効果的・効率的な見守り体制の整備について検討を重ねてきました。

その結果、平成26年3月に、川前地区の高齢者宅を定期的に訪問している地区内外の事業者などと連携し、高齢者等との接点の中で異変等に気付いた場合には、地域包括支援センターなどに情報を集め、早期発見・早期対応するため体制として「川前地区高齢者等

支援ネットワーク連絡会」が立ち上がりました。

この連絡会には、平成26年12月現在、59名の地域関係者と48カ所の協力事業者（医療・介護・金融機関・新聞店・郵便局・商店・寺院・宅配等）、合計107名の方々の登録があります。そして、行政・警察・消防・社会福祉協議会等7つの機関が協力機関として位置づけられています。

登録された方々には、川前地区の高齢者等の異変を発見する以外に、相談支援が必要な状況を把握した際の地域包括支援センターなどへの連絡をお願いしており、連絡会立ち上げ以降、地域関係者や協力機関からの相談・連絡が増加傾向にあり、早期対応につながっています。

今年度は、連絡会で承認されたネットワーク事業の一環として地域包括支援センターが地域ケア会議を開催し、川前町の各行政区における「見守り隊」の結成に向けて奔走しています。この「見守り隊」は行政区の住民が実施する見守りで、日常的な住民相互の見守りの継続と、住民自らが介護予防を実践し健康寿命を延ばすための活動が中心と

なるものです。連絡会の下部組織として位置づけ、3カ年の間に10行政区での結成を目標に展開中で、過疎化が進む川前町を重層的なネットワークで支えるための体制づくりを目指しています。

この事業は、いわき市川前地区のみならず、川前町に隣接する町村の多くの方々の協力を得て成り立っており、それぞれの方が地域高齢者の課題を考える機会になっています。今後も、地域内の支え合う力を引き出しながら、地域住民や関係者とともに、安心して暮らせる川前町づくりを実践して参ります。



（平成26年12月26日 川前町高齢者等支援ネットワーク連絡会検討会の様子）